

医学教育分野別評価 香川大学医学部医学科 年次報告書

2024 年度

医学教育分野別評価の受審 2018（平成 30）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 2
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36

はじめに

本学医学部医学科は、2018（平成 30）年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2019（令和元）年 6 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。

本学医学部医学科では、当該評価での「改善のための助言・示唆」を踏まえ教育活動の改善を実施してきている。このたび、これらの取り組みを 5 回目となる年次報告書としてとりまとめ、提出するものである。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改定があった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域 1.4 における「改善のための示唆」を受け、教育目標および卒業時のアウトカムを設定したが、その整合性についての確認を行っており、今後も継続する。

1.4 使命と成果策定への参画

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

教育目標および卒業時アウトカムの策定には、学外の教育関係者など、より広い範囲の教育関係者の参加が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

令和 2 年度入学生からの新カリキュラムを導入の際に教育目標および

卒業時のアウトカムとの整合性の確認を行った。その後、新カリキュラムは順調に進んでいる。カリキュラム評価委員会ごとにアウトカム、コンピテンシーの見直し議論を行っているが、これらの修正の必要はないという結論で推移している。

【今後の計画】

引き続き、教育目標および卒業時アウトカムの整合性チェックを継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料① 令和5年度第1回カリキュラム評価委員会議事次第・資料

資料② 令和5年度第1回カリキュラム評価委員会議事要旨

2. 教育プログラム

各領域における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、コンピテンシーの設定と各コンピテンシーの到達度評価、「研究マインドの涵養」のためのカリキュラム追加、臨床実習におけるEBM活用の活性化、行動科学カリキュラムの充実、低学年から患者と接する機会の増加、外部評価者を含むカリキュラム委員会等の取り組みを実施した。

2.1 プログラムの構成

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

講義収録システムを用いて、多くのコンテンツを収録し、学生の学修支援を行っていることは評価できる。

PBL や反転授業などによるアクティブラーニングが行われていることは評価できる。

改善のための助言

アウトカムの下位領域のコンピテンシーを設定し、学年ごとの到達度を測定できるカリキュラムを定めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

令和元年7月に医学教育FDを開催し、ワークショップ形式でコンピテンシーの原案を協議、その後、医学部教育センターと学務委員会でブラッシュアップし、策定した。

令和2年度は、そのコンピテンシーと授業科目を紐付けした。科目によって、「主として教育」、「主として評価」、「教育・評価」のいずれに区分されるか明記した。

令和3、4、5年度は、コンピテンシーと紐付けされた授業科目の成績から、コンピテンシーの各項目を点数化した。その結果、いずれの年度も「倫理観・社会的責任」が優れており、「問題解決・課題探求能力」が劣っている可能性が示唆された。学生に「現場での課題解決能力」の重要性を認識させ、自ら主体的に考える習慣をつけさせることが重要であると考えられた。

【今後の計画】

令和3、4、5年度はコンピテンシーの点数化を行ったが、今後も継続し、それぞれのコンピテンシーの妥当性とコンピテンシー点数向上のための教育改善策について検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料③ 卒業予定学生コンピテンシー各項目点数化資料（2021-2023）

2.2 科学的方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

全学生に対し、研究マインドの涵養をいっそう図るべきである。
臨床実習の現場でEBMを活用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

研究マインドの涵養

- 1) 令和3年度2年次生後期から「医学と研究」授業を新設し、学内で進行中の最新の研究内容を紹介する。
- 2) 3年次の必須科目で研究室配属の機会の一つとして開講してきた「課題実習」の期間を令和2年度から1週間延長した。これにより、発表会を開催できるようにし、研究に関する教育効果を高める工夫とした。令和2年度新入生から適用する新カリキュラムにおいては、「課題実習」を「医科学研究」と改め、令和4年度か

らこれが実施され、令和5年度も実習内容をさらに研究的なものにすることを促進している。

臨床実習における EBM の活用

臨床実習実施要項（医学実習Ⅰ）に、臨床実習でどのように EBM を活用するかを明記し、それを実践している。

令和2年度は臨床医学教育実務者会議において、臨床実習実施要項（医学実習Ⅰ）への記載と実施状況についてアンケートと調査を行った。その結果、臨床実習実施要項（医学実習Ⅰ）への記載は全ての診療科においてなされており、記載内容の実施も各診療科でなされていることが確認された。

令和2年度以降継続して、EBM の実施状況についてのアンケートを行っている。またアンケート結果については、臨床医学教育実務者会議でフィードバックを行い、同会議でさらなる EBM 活用の推進を依頼している。

【今後の計画】

- ・令和3年度から実施開始となった2年次生後期「医学と研究」は今後も継続実施する。
- ・令和4年度から開始した3年次「医科学研究」は今後も継続実施し、学生のさらなる研究活動と研究マインドの涵養を推進する。
- ・医学実習Ⅰにおける EBM の活用内容について、今後も実施状況についてのアンケート調査とその解析を含め、臨床医学教育実務者会議にて引き続き検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料④ 医学科授業時間割新旧対照表（1年次生）・（2年次生）

資料⑤ 香川大学医学部履修要項（別表1）新旧対照表

資料⑥ 2023 臨床実習実施要項（教育要項別冊）（医学実習Ⅰ）

資料⑦ 令和5年度「医学と研究」シラバス

資料⑧ 令和5年度「医科学研究」シラバス

資料⑨ 令和5年度第1回臨床医学教育実務者会議議事要旨

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

新設された医学部臨床心理学科の教員と協働して行動科学教育の充実に取り組んでいる。

改善のための助言

行動科学カリキュラムは未だ不十分であり、臨床心理学科との協働を発展させ、独立したカリキュラムとして改善すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

- ・行動科学・行動変容に関する授業である5年次の「医療管理学・診断学」において、医師と患者とのロールプレイに関する授業を行っている。
- ・令和3年度から「医療プロフェッショナリズムの実践Ⅱ」を「行動科学とチーム医療」に変更し、行動科学とコミュニケーションスキルについて一層の充実を図るカリキュラムとした。
- ・臨床心理学科教員を含めた外部講師によるコミュニケーション科目を実施している。
- ・令和5年度は「行動科学とチーム医療」において、コロナ感染対策の緩和により、コミュニケーションスキルの実習について、グループワークを再開し一層の充実が図られた。

【今後の計画】

- ・全学年での系統的行動科学プログラムの構築を目標に整備を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料⑤ 香川大学医学部履修要項（別表1）新旧対照表

資料⑩ 令和5年度「行動科学とチーム医療」シラバス

資料⑪ 令和5年度「医療管理学・診断学」シラバス

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学に関して、科学的、技術的そして臨床的進歩や、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることに従ってカリキュラムを調整し、修正することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

令和3年度の2年次生より、「医療倫理学」、「医学・医療と社会」および「医療と法」を必修科目として開始し、令和5年度も実施した。

【今後の計画】

「医療倫理学」「医学・医療と社会」「医療と法」を必須科目としたが、今後も学生からの意見を集約し一層の充実をはかる。

改善状況を示す根拠資料

資料④ 医学科授業時間割新旧対照表（1年次生）・（2年次生）

資料⑫ 令和5年度「医療倫理学」シラバス

資料⑬ 令和5年度「医学・医療と社会」シラバス

資料⑭ 令和5年度「医療と法」シラバス

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間中に十分に確保すべきである。

重要な診療科での実習時間を十分に確保すべきである。

患者安全に配慮して、診療参加型臨床実習を充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

- ・令和元年度の医学実習Ⅱから実習期間を12週から27週に延長し、臨床実習の充実を図り、令和5年度もこれを継続している。
- ・診療科の選択において、医学実習Ⅱについて、内科系を2クール、外科系を1クール、地域医療実習を1クール選択することを必須とした。この結果、医学実習Ⅰと合わせて内科系実習は13週、外科系実習は9週となった。
- ・令和3年度は新型コロナウイルスの蔓延により、学内外の医学実習（ⅠおよびⅡ）が一時的に中止となり、予定した実習期間の確保が困難であった。令和4年度は令和3年度と比べて実習を再開できる状況が多

かったが、まだ現場での実習が不足していた状況であった。令和5年度はさらに積極的に臨床実習を行うことができたが、診療参加型臨床実習の導入は限定的であった。

【今後の計画】

医学実習Ⅱについては27週を維持して、診療参加型臨床実習を十分に行う。

内科系を2クール、外科系を1クール、地域医療実習を1クール選択することを継続する。

令和5年度は診療参加型臨床実習の導入について、周知を行ってきたが、令和6年度は実際の導入を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料⑮ 2023 臨床実習実習要項（教育要項別冊）（医学実習Ⅱ）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

低学年から患者と接触する機会をさらに増やすことが望まれる。

教育プログラムの進行に合わせ、さまざまな臨床技能教育が行われるように教育計画を構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

低学年から患者と接触する機会：

令和3年度から適応する新カリキュラムにおいて、2年次後期に「患者との出会い」を開講し、外来診療の見学等による、低学年から患者と接する機会を設けた。令和3年度は初回実習を目標として準備を行ったが、全4回の実習のうち、最初の1回のみ実施し、残り3回はコロナ感染拡大の影響により中止となった。令和4、5年度は全4回の全てが実施できた。

教育プログラムの進行に合わせ、さまざまな臨床技能教育を行う：

3年次前期の必須科目「生理・薬理実習」において、心拍数・血圧などのバイタルサイン測定、呼吸機能測定、心電図測定の臨床技能教育の

機会を設けており、これを継続している。

【今後の計画】

- ・令和6年度以降も令和3年度からの2年次後期の「患者との出会い」の開講を継続する。
- ・生理・薬理実習以外にも、臨床実習前講習等で、スキルスラボでの実習を含む基本的な臨床技能教育の実施について検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料④ 医学科授業時間割新旧対照表（1年次生） ・ （2年次生）

資料⑯ 令和5年度「患者との出会い」シラバス

資料⑰ 令和5年度「生理・薬理実習」シラバス

2.6 プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

基礎医学科目で教育が過密になっており、適切な配分と全体のバランスを考慮したプログラムを構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

- ・令和2年度から、基礎医学科目での過密を解消するカリキュラム改革を行った。
- ・2年次前期で午後3時限・20回にわたり授業枠を占めていた自然科学実習を1年次後期に移行した。
- ・令和2年度から、2年次前期で自然科学実習移行後の授業枠を用いて、解剖学や生理学を中心に前倒しし、後期にかかる負担軽減を行った。
- ・令和2年度から、生理学の授業枠を短縮し、学生の負担減を図った。
- ・令和3年度から2年次生に対して、学生の負担を軽減した新たなカリキュラム（プログラム）を実施している。
- ・令和4、5年度のカリキュラム評価委員会では、新カリキュラムの過密解消の効果について確認した。

【今後の計画】

引き続きカリキュラム評価委員会での学生の意見を参考にし、今後の改善策を検討する。各科目の講義時間数の削減を図る。令和6年度は、まず、各科目の空き時間を増やすことを目標とする。令和7年度以降はさらに講義の空き時間を増やすと同時に、空き時間を集約・整理し、より効率的で過密を避けたカリキュラムの作成を目指す。以上により、学生の自習時間や課外活動時間を十分確保し、自由度の高い学修環境の提供を目指す。

改善状況を示す根拠資料

資料④ 医学科授業時間割新旧対照表（1年次生）・（2年次生）

資料⑱ 令和5年度第2回カリキュラム評価委員会議事要旨

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

基礎医学と臨床医学の垂直的統合が実施されている。

改善のための示唆

関連する科学・学問領域および課題の水平的統合を推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

令和2年度新入生から適用する新カリキュラムにおいて、2年次生（令和3年度）からの解剖学と生理学との順次性を十分に意識した時間割を構築し、令和3年度から実施している。

その結果、解剖学と生理学とは、中枢神経系、脈管系など、水平的統合を視野に入れた、ある程度まとまりのある配置となっている。

3年生の症候論では、症候ごと（授業コマごと）に臨床系と基礎系の教員が1人ずつ（計2人）担当し、垂直的統合授業が行われている。

【今後の計画】

今後も学生からの意見等を参考にさらなる統合を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料⑲ 令和5年度 講義・実習時間割（2年次）

資料⑳ 令和5年度「症候論・PBL チュートリアル」シラバス

2.7 プログラム管理

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

カリキュラム委員会に各学年の学生代表が参加し、意見を述べている。

改善のための助言

カリキュラム委員会の活動をさらに活性化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

令和3および4年度は、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会を1回ずつ開催し、学生から意見を聴取した。

開催した委員会では、現行の教育プログラムに関する意見交換、特にオンライン授業による出席確認方法の統一と試験実施タイミングについて議論し改善することとした。また、学生委員から意見を聴取した。

令和5年度はカリキュラム評価委員会の開催を2回/年に増やし、学生の声を聞く機会を増やした。その他、「学生会との懇談会」（1回/年）においても学生の意見を取り入れる機会を設けている。令和5年度もカリキュラム評価委員会で挙げた問題点をカリキュラム委員会で議論し改善が行われた。この改善例としては、「3年生のユニット講義等の短期集中授業における欠席の取り扱いについてより柔軟に対応する」「卒業試験における合否判定について、総合点の判定に加え、単独科目でも判定する」の2点である。

【今後の計画】

今後もカリキュラム評価委員会からの報告を受けて、カリキュラムの改善に取り組む。また、6年間のカリキュラム全体を見渡した際のプログラムの過不足についても継続的に検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料⑱ 令和5年度第2回カリキュラム評価委員会議事要旨

資料㉑ 令和5年度カリキュラム委員会議事要旨

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

カリキュラム委員会を中心にして、教育カリキュラムの改善を着実に計画し、実施することが望まれる。

カリキュラム委員会に教員と学生以外の教育の関係者を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

令和2年度のカリキュラム委員会では、現行の教育プログラムに関する意見交換のほか、令和元年度の4年次生の過密スケジュール（法医学開講時期）の解消措置についての効果を確認した。また、学生委員から意見を聴取した。

令和3年度から、カリキュラム委員会委員として、看護部、薬剤部、学務課からの委員を加え、令和4年度、令和5年度はこの体制が継続された。令和5年度もカリキュラム評価委員会で挙げた問題点をカリキュラム委員会で改善策を打ち出し、実行される仕組みが機能している。

【今後の計画】

今後も、副看護部長、薬剤部長、学務課長をカリキュラム委員会の新規委員として委嘱し、意見を聴取し、カリキュラム改善に活かす。

改善状況を示す根拠資料

資料⑳ 令和5年度カリキュラム委員会議事要旨

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

教育関連病院と連携して、卒前教育と卒後の教育・臨床実践との間の連携をより確実に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

令和5年度は令和2および3、4年度と同様に、学生が地域実習に訪れる医療機関の指導医に対してオンラインで香川大学医学部教育プログラ

ム説明会を実施した。

内容としては、教育プログラムの内容とコロナ禍収束に向けた教育体制についての説明を行った。この説明会は学外指導医に対する FD の位置づけであるとも考えている。

【今後の計画】

医学実習 I および II において学生が地域実習として訪れる医療機関の指導医に対する FD は今後も継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料⑳ 令和 5 年度香川大学医学部教育プログラム説明会案内

資料㉑ 令和 5 年度香川大学医学部教育プログラム説明会スライド資料

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

地域、社会の意見を積極的に取り入れて教育プログラムの改良に反映するシステムを構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

- ・香川大学医学部・香川県連絡会議において、香川県の担当者との意見交換を定期的に行っている。
- ・香川県地域医療対策協議会に医学部長が出席し、香川県における医療状況に関する情報を収集している。

【今後の計画】

上記の会議からの情報は継続的に収集し、必要に応じて教育プログラムの改良に用いる。

改善状況を示す根拠資料

資料㉒ 第 23 回香川大学医学部・香川県連絡会議（議事要旨）

資料㉓ 香川県地域医療対策協議会委員名簿（令和 5 年 5 月 10 日時点）

3. 学生の評価

各領域における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、コンピテンシー項目の点数化等の取り組みを実施した。今後もこの点数化を継続し、妥当性と有用性、改善策についての検討を行う。

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

再試験に関する明確な基準を設定すべきである。

各科目の実習・演習、学内外の臨床実習において、評価基準を明確にし、知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。

さまざまな評価方法を導入し、適正に評価すべきである。

学生の評価について、外部の専門家によって吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

- ・再試験の実施回数を原則1回とすることを令和3年度より履修要項に明示した。
- ・令和3、4、5年度、6年生の成績を用いて、各コンピテンシーの点数化を行い、弱点領域の抽出を行った。これにより年度毎の各項目における点数の変化を評価可能で、言語運用能力、知識・理解、問題解決・課題解決能力、倫理観・社会的責任、地域理解の項目毎の評価が可能となっている。
- ・令和4年度から、医学実習で経験した手技を記録するログブックおよび経験した症例記録について、Webで入力できるシステムを作成し、稼働させた。
- ・学生への成績開示後に異議申し立て期間を設定し、成績評価に異議を唱える学生が、教育の責任を持つ教育組織による組織的に公平な判断を受けることが可能となる制度を構築した。
- ・令和5年度も、医学実習IおよびIIのWeb評価シートについて、コンピテンシーと整合性のある評価項目の設定や改善の必要性の検証を継続している。

【今後の計画】

- ・令和6年度も大学間の学生評価方法の相互点検開催の可能性を模索する。県内の外部医療機関の指導医にカリキュラム評価委員会、カリキュラム委員会に参加してもらい、また、地域医療機関と大学とのオンラインでの協議会等で、学生評価についての意見を確実に聴取する。
- ・引き続き、共用試験における外部からの監督者・評価者を受け入れる。
- ・成績評価結果に対する異議申し立てに対して、学務委員会や各教員の意見を聴取し、適切な対応が出来ているか確認を行っていく。
- ・ログブックや経験症例記録について、記録件数が非常に少ない状況であり、今後も継続的に学生および指導教員に記録を促す周知を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料⑳ 香川大学医学部履修要項（令和5年4月1日施行）

資料㉓ 卒業予定学生コンピテンシー各項目点数化資料（2021-2023）

資料㉗ ログブックに関する資料（2023）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

- 評価の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。
- 外部評価者をさらに活用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

- ・令和元年度に設定したコンピテンシーそれぞれについて、評価を行う授業科目案を作成し、令和4、5年度においても、継続してコンピテンシーの各項目について点数化を行った。
- ・外部評価者として大学外の有識者を臨床教授として積極的に任用した。

【今後の計画】

- ・コンピテンシーの点数結果から、コンピテンシーの評価を担当する講座からの評価の妥当性について意見集約を行う。
- ・今後も四国地区国立大学医学部間で学生評価法の相互点検を実施の可能性について検討を行う。

- ・各科目の評価法について、コンピテンシーに沿った科目目標の達成を計測可能な評価となっているのか、点検を行う機会を含むFDワークショップを令和6年度11月に開催予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料③ 卒業予定学生コンピテンシー各項目点数化資料（2021-2023）

資料⑳ 臨床教授任用計画リスト（臨床教員過去3年間の推移）

3.2 評価と学習との関連

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

各科目で目標とする学修成果の達成度を段階的に評価すべきである。学生の学修意欲を向上させるために、形成的評価の導入をさらに進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

- ・コンピテンシーとそれを評価する授業科目案を作成し、令和3年度から継続して令和5年度についても卒業予定者の成績を用いて、この学年の各コンピテンシーの点数化を行った。

【今後の計画】

- ・今後、コンピテンシーの点数化を継続的に行い、点数や評価の妥当性を含めて検討を進める。また、最終学年のみならず、基礎医学終了後、臨床実習直前の状況についても解析を加える。
- ・中間テストなどの形成的評価の導入について、各授業科目担当講座へ検討を依頼し、シラバスの「成績評価の方法と基準」に明記するよう周知を継続的に行う。

改善状況を示す根拠資料

資料③ 卒業予定学生コンピテンシー各項目点数化資料（2021-2023）

資料㉑ 形成的評価のシラバスへの記載状況（2021-2023）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

臨床実習評価に Web 評価シートを導入し、学生が自分の達成度を確認できる仕組みを構築している。

改善のための示唆

導入された Web 評価シートを臨床実習の形成的評価として有効に活用することが望まれる。

学生の学修が促進されるよう、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを活用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

- ・医学実習 I においては学生が毎週、Web 評価シートを閲覧して評価とコメント欄を必ずチェックできるようシステム変更を行うとともに、医学実習 II Web 評価シートにおいてはこれまでの 5 項目評価からコンピテンシーと整合性のある評価が行えるよう 9 項目評価へと改良し実施している。これらによって導き出された医学実習 I および II の学生の成績を用いて、コンピテンシーの点数化を行った。
- ・医学実習におけるアンプロフェッショナルな学生対応として、学務委員会でその対応方法を作成し（フローチャートも作成）、各講座に周知して運用を開始している。

【今後の計画】

- ・今後もコンピテンシーの点数化を毎年継続して行う。
- ・医学実習 I および II の評価について、コンピテンシー点数との整合性を検証し改善をすすめる。
- ・中間テストなどの形成的評価の導入について、各授業科目担当講座へ検討を依頼し、シラバスの「成績評価の方法と基準」に明記するよう周知を継続する。
- ・アンプロフェッショナルな学生対応を評価し、その改善策を提案し、医学教育現場にフィードバックする。

改善状況を示す根拠資料

資料③ 卒業予定学生コンピテンシー各項目点数化資料（2021-2023）

資料②⑨ 形成的評価のシラバスへの記載状況（2021-2023）

資料③⑩ 医学実習 I・II Web 評価シート

資料③① 医学実習 I Web 評価シートの学生閲覧画面

資料③② 学務委員会資料（アンプロフェッショナルな学生対応）

5. 教員

各領域における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、ワークショップ型 FD を含む FD 実施等の取り組みを実施した。また、令和4年度からは、新規任用教員全員に対して、教育能力を測るために、模擬授業と面接を実施している。

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

教育の質を向上させるために、教員の研修や教育能力の開発を着実に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

- ・令和5年度は医学部 FD を計 15 回開催した。このうち、7回は医学部教員による授業公開を FD として実施したものである。「医学教育ワークショップ：アンプロフェッショナル学生への対処方法について」では、愛知医科大学の宮田靖志先生を招いて講演会を行った。
- ・上記の FD のうち、「CBT 作問に関するワークショップ型 FD」はワークショップ形式で実施した。
- ・学外実習施設の指導医に対しても FD を実施している（R6.3.12 香川大学医学部教育プログラム説明会）。これは毎年開催しており、現在の医学教育について、医学教育学講座教授より説明している。

【今後の計画】

- ・令和6年度は医学部 FD を複数回開催し、教員の教育能力の開発に資する内容となるよう工夫する。特に、令和6年度では「診療参加型臨床実習を進めるための臨床での学生指導」および「科目の目標と評価について」の2つの医学教育ワークショップ FD を行う予定である。
- ・「CBT 作問に関するワークショップ型 FD」は継続的にワークショップ形式で実施する。

- ・教員（准教授・講師・助教）採用／任用時に教育能力を計るために、医学部長、病院長、学務委員長、関連領域教授4名による授業（10分の収録）視聴と面接を実施する制度を新たに設けた。令和5年1月から開始し、2回、9名実施した。
- ・今後も学外施設の実習担当指導医に対するFDを拡充する。これまで年1回程度だったが、学外施設の実務者が集まる場でのFDの追加を計画している。

改善状況を示す根拠資料

- 資料③ 2023年度医学部のFD実施状況および授業公開実施状況
- 資料④ 令和5年度香川大学医学部教育プログラム説明会スライド資料
- 資料⑤ 教員選考に係る事前審査の実施について（通知）

6. 教育資源

各領域における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、臨床実習における経験症例の把握等の取り組みを実施した。新型コロナウイルス感染対策は緩和され、外来・病棟・手術室での臨床実習は従来状況に戻っている。疾患分類ごとの過不足の検討には今後も引き続き検討を行う。

6.2 臨床トレーニングの資源

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

学生が適切な臨床経験を積めるように疾患分類を定義し、十分な患者数を確保すべきである。

臨床実習の指導体制をさらに充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

- ・学生が経験した症例を把握するために、医学実習Iにおいて、学生が経験できた手技および受け持ち患者として経験した患者概要について、WebClassに入力させた。平成30年度、令和元年度共に300例余りの症例の集積ができた。令和2、3、4年度は新型コロナウイルス

ス感染症拡大に伴い、実習が制限を受けたため症例数が減っているが、令和5年度は回復傾向である。令和5年度の医学実習Ⅰ経験症例記録を資料として添付する。

- ・医学実習Ⅰの期間中に毎週行う「医療管理学・診断学」実習では、架空の症例ではあるが症状や身体所見から鑑別診断を考え確定診断に至るまでの訓練を小グループで行う実習を行い、診断能力をつける実習を行っている。
- ・医学実習Ⅱにおいて、3週間の地域医療実習を必修とし、学生を受け入れる医療機関を大幅に増加させた。これらの医療機関の教育担当医師に大学からの実習での要望事項を伝え、それを基に各医療機関での実習要項を作成していただいた。

【今後の計画】

- ・集積された症例を分析して、疾患分類ごとに過不足を検討する。
- ・学外実習実施医療機関の担当者とは今後も連携を密にしていく。
- ・臨床医学教育実務者会議で各診療科の教育担当者の中で、患者数確保の状況を共有する。

改善状況を示す根拠資料

資料⑮ 2023 臨床実習実習要項（教育要項別冊）（医学実習Ⅱ）

資料⑳ 令和5年度医学実習Ⅰ経験症例記録

6.3 情報通信技術

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

講義自動収録システムを設置し、学生の自己学修に利用できることは評価できる。

改善のための示唆

患者のデータにアクセスし、診療録を記載できるように、学生が電子カルテシステムを活用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

臨床実習開始前に電子カルテへの記載方法を解説し、学生が円滑に電子カルテへの記載ができるように配慮した。

また、実習に係わる教員にも学生が記載したカルテ内容の確認の仕方を

周知し、教員側からも学生のカルテ記載を促進するようにした。

令和3年度は電子カルテ記載状況に関してアンケートを実施し、その結果を令和3年7月の臨床医学教育実務者会議にてフィードバックした。

令和4、5年度では学生が経験した手技を記録するログブックの項目に「電子カルテへの記載」を加え、徹底を図った。

【今後の計画】

今後も学生の電子カルテ記載については実習担当教員が常に確認をするように、臨床医学教育実務者会議等で繰り返し周知を行う。また、学生の電子カルテ記載を推進するためにログブック記載の普及を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料⑨ 令和5年度第1回臨床医学教育実務者会議議事要旨

資料⑳ 臨床実習前特別講習電子カルテ説明資料

資料㉑ ログブックに関する資料（2023）

7. プログラム評価

各領域における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、教学 IR 医学部分室による学生の成績の分析結果をカリキュラム評価委員会へフィードバック、卒業生および指導医へのアンケート等の取り組みを実施した。今後の課題は、調査分析の結果をカリキュラムへ改善につなげることである。

7.1 プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

教学 IR 部医学部分室を設置し、情報の収集と管理に着手している。

改善のための助言

カリキュラム委員会とカリキュラム評価委員会の位置づけを明確にして、カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタする仕組みを確立すべきである。

教育プログラム評価の結果をカリキュラムの改善に確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

カリキュラム委員会とカリキュラム評価委員会の役割を明確にした上

で規約策定が完了し、両委員会は明確な独立性をもって適切に運用されている。カリキュラム委員会は、カリキュラムの立案や改定を行いその結果を学務委員会に報告する。カリキュラム評価委員会は、学生の成績情報や学生・教員からのカリキュラム諸情報をもとに分析し問題点を抽出してカリキュラム委員会に改善要求をする仕組みが確立している。

この仕組みが機能した令和5年度の例として、集中型講義の公欠扱いの上限日数についての緩和、卒業試験の再試験方式の変更（1科目のみ点数が低い場合も当該科目を再試験の対象とする）があった。

教学 IR 部医学部分室では、GPA、CBT、総合試験、卒業試験の成績に関して分析を行っている。令和3、4、5年度のカリキュラム評価委員会では、教学 IR 部医学部分室からの情報をもとに累積 GPA、Post-CC OSCE、卒業試験の成績の関連性を示す資料を作成し提示説明した。この分析は今後経年的に行う予定である。年度ごとの分析は、過年度のそれと比較しフィードバックすることで教育の実績と改善につなげることが可能となる。

【今後の計画】

令和2年度入学の1年次生から導入された新カリキュラムの評価は、カリキュラム評価委員会が中心となって、年次進行に従って継続的に行っていく。抽出された問題点はカリキュラム委員会・学務委員会の議を経て必要に応じて改定していく。

旧カリキュラムについては、これまで同様カリキュラム評価委員会で行われた意見をもとに改定を行う。

改善状況を示す根拠資料

資料⑳ 令和5年度カリキュラム委員会議事要旨

資料㉑ 令和5年度第1回カリキュラム評価委員会議事要旨

資料㉒ 令和5年度第2回カリキュラム評価委員会議事要旨

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

教育活動、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果および社会的責任について、定期的に、プログラムを包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

医学教育分野別評価の領域2での指摘を受けて、令和2年度入学の新入生から新カリキュラムが施行された。

教学IR部医学部分室からの学生の成績やアンケート等についての情報収集は継続して行っており、カリキュラム評価委員会にその情報を提供する体制は確立している。カリキュラムにおける改善事項はカリキュラム委員会にフィードバックしカリキュラム改善に資する体制を再確認した。

長期間で習得される学修成果などの総合的教育活動の評価指標を確実に捉え、継続的にプログラムを評価できる体制が整っている。

【今後の計画】

新カリキュラム移行後は定期的にプログラム評価を行う予定である。

教学IR部医学部分室で新カリキュラム移行後の学生の経時的成績、学生や教員からのアンケート等を収集し、年次進行に応じて、統合講義ディレクター会議、臨床医学教育実務者会議、およびカリキュラム評価委員会に提供し、教育プログラムの評価を行い、カリキュラム委員会でのプログラム改訂資料とする。改訂部分については学務委員会の議を経て教育プログラムを包括的に評価する。

改善状況を示す根拠資料

資料③⑦ 香川大学医学部教育センター規程

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

教育プログラムについて学生からのフィードバックを系統的に求めている。

改善のための助言

教育プログラムについて、学生だけでなく、教員からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

医学教育分野別評価の領域2での指摘を受けて、教員と学生からの指摘

が教育プログラムにフィードバックされる以下のようなシステムが整備された。

教育プログラムは、カリキュラム委員会・カリキュラム評価委員会の学生委員や、年に一度開催される学生自治会との懇談会において学生からのフィードバックを受けており、必要に応じてプログラム改訂に活かしてきている。

一方、教員からは、上記2つの委員会に加えて、基礎医学懇談会（月1回開催：基礎医学系教員の教育情報交換）、臨床医学教育実務者会議（年数回開催：臨床実習関連の調整と意見交換）、および統合講義ディレクター会議（年1回開催：翌年度の臓器別講義の調整と意見交換）において教育プログラム全般についてのフィードバックを定期的に受けており、必要に応じてプログラムの改訂に活かしている。

【今後の計画】

今後も教員と学生両者からのフィードバック情報を継続的に収集し、確実にカリキュラム改善につなげていく。

改善状況を示す根拠資料

資料⑨ 令和5年度第1回臨床医学教育実務者会議議事要旨

資料⑪ 令和5年度カリキュラム委員会議事要旨

資料⑫ 令和5年度第1回カリキュラム評価委員会議事要旨

資料⑬ 令和5年度第2回カリキュラム評価委員会議事要旨

資料⑭ 令和5年度学生会との懇談会資料

資料⑮ 令和5年度統合講義ディレクター会議議事要旨

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

教員および学生からのフィードバックの結果を、教育プログラムの改善にさらに利用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

学生からのフィードバックを受け、これまで2年次前期に開講していた「自然科学実習」を、令和2年度新入生から適応する新カリキュラムにお

いては1年次後期に移行した。

【今後の計画】

今後、新たに導入された新カリキュラムについても毎年教員および学生からのフィードバックを教学 IR 医学部分室で分析し、その結果をカリキュラム評価委員会で検討し、プログラム改訂の必要性について検討する。改訂が必要な部分についてはカリキュラム委員会で必要に応じて改訂を加えていく。

改善状況を示す根拠資料

資料④ 医学科授業時間割新旧対照表（1年次生）・（2年次生）

7.3 教員と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

使命と学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

令和3、5年度はカリキュラム評価委員会が主導して卒業生の実績調査を行った。本調査は2年に1回行う予定としており、今回は令和7年度末に調査を行う予定である。調査対象者と調査内容は以下である。

- 1) 近隣の臨床研修病院の指導医に対して、指導した香川大学医学部卒業生の知識・技能・態度についてのアンケート調査を行った。ほとんどの指導医から、本学を卒業した臨床研修医の医学的知識や医療技能、また医療人としての態度は比較的高いレベルで学修できている旨の回答を得た。一方で、令和3、5年度の結果からは「社会における医療の実践」「医学知識と問題対応能力」「診療技術と患者ケア」「医療の質と安全管理」が低い傾向があり、実戦的な能力の育成が弱点になっていることが分かった。
- 2) 初期臨床研修中（1年目および2年目）の卒業生に対して、香川大学医学部の教育プログラムとしてディプロマポリシー13項目についてのアンケート調査を行った。
在学中/卒業時にはチーム医療、国際的視野、地域医療に対する学修

が不十分であったと回答していたが、初期研修により探求心や問題解決能力を含めて上記事項が充分達成できたという回答が特徴的であった。令和3、5年度の研修医アンケートの結果からは、「国際的視野」「チーム医療・グループでの研究」「診療能力・技能」の順に習熟度が低い認識があることが分かった。

【今後の計画】

- 1) 次回は、令和7年度末に調査を行う。
- 2) 初期臨床研修を終了した卒業生とその指導医を対象とした調査は、毎年継続して実施しデータ蓄積を図り教育カリキュラムに確実に反映させる。
- 3) CBT、卒業試験、医師国家試験模擬試験、および医師国家試験において、領域別に学生の成績を分析し、他領域や全国平均に比して劣っている領域については、それらの領域の教員にフィードバックし、教育の充実を促す。
- 4) 初期臨床研修を終える卒業生を対象に、卒前教育や後期研修の領域等についてアンケート調査を行い、その結果を分析・フィードバックし、教育プログラムの改訂に活かす。

診療参加型の臨床実習において「診療能力・技能」の達成率が不良な項目に対して、令和6年度も継続してログブックを一層活用して自己の医学実習の充実度を可視化して診療能力・技能教育の充実を図る。

改善状況を示す根拠資料

資料④⑩ 卒業生アンケート結果 (2024)

資料④⑪ 指導医アンケート結果 (2024)

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

入学選抜方法別に学生の実績を分析し、その結果を入学試験委員会にフィードバックしている。

改善のための示唆

学生の背景と状況に関して、学生と卒業生の実績を分析し、責任ある委員会へフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

卒業生アンケートの質問内容を、関連する委員会や部署にフィードバックしやすいようにしている。学生の学習事項については全学および医学部の教学 IR 室からの情報を継続的に分析し、その結果を責任ある委員会や部署にフィードバックできる体制を整備した。

アンケートの結果判明した解決しなければならない課題は、基礎医学懇談会、臨床医学教育実務者会議、統合講義ディレクター会議、学務課に加え、該当する科目担当教員に縦断的・横断的にフィードバックし、確実に改善につなげる。

【今後の計画】

学生の実績に関しては、7.1 に掲げた指標を継続的に分析し、必要に応じてフィードバックを行う委員会等を明確にし、迅速に対応する。

今年度も継続的に卒業生に対するアンケート調査を行い、カリキュラム委員会や学務委員会、さらに入試委員会等へのフィードバックを行う。

改善状況を示す根拠資料

資料④⑩ 卒業生アンケート結果（2024）

7.4 教育の関係者の関与

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

他の関連する教育の関係者に、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

1年次生：早期地域実習における実習先の医療機関や老人保健施設から、学生の評価および実習のあり方について、学生評価記録用紙を通じてフィードバックを受けている。

4～5年次生：医学実習 I の地域医療実習（1週間）において、実習先の医療機関から学生個別の評価と実習のあり方について意見を招請し

ている。

また、年に1回実習先医療機関の指導医を招聘して地域医療教育支援センター運営委員会を開催し、学生の態度や実習のあり方等について意見をj得ている。

5～6年次生：医学実習Ⅱの地域医療実習（3週間）において、実習先の医療機関から学生個別の評価を得ている。

令和5年度も「香川大学医学部教育プログラム説明会」をWeb開催し、学外の教育関係者に対して、FDとして香川大学医学部医学科の教育プログラムの趣旨・意図等について説明し、意見交換を行った。

【今後の計画】

前述の取り組みを今後も継続し、新カリキュラム移行後はそのあり方についてもフィードバックを求め、カリキュラムに反映させる予定である。新たに、医学実習に協力頂いている模擬患者からも、教育プログラムに関するアンケートを計画しておりフィードバックシステムに追加する。

改善状況を示す根拠資料

資料④② 医学科1年次生関係医療機関等評価表

資料④③ 医学実習Ⅰ地域医療実習評価表

資料④④ 医学実習Ⅱ学外実習評価表

資料④⑤ 令和5年度地域医療教育支援センター運営委員会議事要旨

8. 統括および管理運営

各領域における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、多職種職員の委員会への参画等の取り組みを実施した。今後も継続する。

8.1 統括

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

統轄する委員会に、より広い範囲の教育の関係者の参画が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

Pre-CC OSCE および Post-CC OSCE、では学外の医師を評価者に加え

ている。(2.8 臨床実践と医療制度の連携より)

アウトカム基盤型教育に沿った科目目標の達成度を計測可能な評価方法について、医学教育ワークショップ FD を通じて点検し、改善を行う。

(3.1 評価方法より)

1年次生の医療プロフェッショナルリズムの実践、4～5年次生の医学実習Ⅰおよび5～6年次生の医学実習Ⅱにおける地域医療実習において、実習先の医療機関や老人保健施設の学外教育担当者より学生および実習プログラムの評価を受けている。(7.4 教育の関係者の関与より)

また、香川大学医学部・香川県連絡会議において、香川県の担当者との意見交換を定期的に行っている。(2.8 臨床実践と医療制度の連携より)

令和3年度より、カリキュラム委員会の委員として、副看護部長、薬剤部長、学務課長を追加した。

【今後の計画】

状況に応じて、学内外を問わずより広い範囲の関係者の参画を求める予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料②④ 第23回香川大学医学部・香川県連絡会議(議事要旨)

資料④② 医学科1年次生関係医療機関等評価表

資料④③ 医学実習Ⅰ地域医療実習評価表

資料④⑥ 令和元年度 Post-CC OSCE 評価者名簿

資料④⑦ 令和5年度カリキュラム委員会名簿

8.4 事務と運営

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

教学 IR 部医学部分室の事務体制を充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

専任ではないが、学務課で、入試成績、年度末の累積 GPA、共用試験成績、5年次末の総合試験成績、卒業試験成績等を教学 IR 部医学部分室のデータとして順次提供する担当職員を定めている。今後、教学 IR 部医学

部分室の職員の配置に向けての取り組みを続ける。

【今後の計画】

教学 IR 部医学部分室の職員配置に向け、努力を続ける。

改善状況を示す根拠資料

資料なし

9. 継続的改良

「改善のための助言」を受けて、令和2年度には臨床実習期間を延長し、臨床実習評価の項目および段階を見直し、令和4年には臨床実習中の実技学習のWEB入力可能な記録簿「ログブック」を導入し、診療参加型臨床実習の充実とプログラム評価の実質化に取り組んできた。

9. 継続的改良

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

2015年度の大学評価・学位授与機構による機関別認証評価、および今回の医学教育分野別評価によって、医学教育の自己点検評価と第三者評価を受け、医学教育改革を推進している。

改善のための助言

診療参加型臨床実習の充実を図り、プログラム評価を実質化するなど、継続的な改良を進めることが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

【関連する教育活動、改善内容】

令和2年度に、診療参加型臨床実習の充実を図るため医学実習Ⅱの実習期間を延長し、プログラム評価の実質化を図るため医学実習Ⅱの評価項目および評価段階を増加させた。令和3年度も継続して実施した。

令和3および4年度も新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、学外実習を中断するなど実習の中止や縮小で適宜対応した。また、臨床実習中に学習した実技の記録簿「ログブック」について、令和4、5年度はWeb入力可能なシステムを導入し、臨床実習実務者会議にて周知し実行した。令和5年度は、令和4年度と比べて学生の入力率を向上させるための改善策を継続した。

【今後の計画】

医学実習Ⅱの期間延長による診療参加型臨床実習の充実への効果や問題点、評価方法の見直しによる学生および教員へのフィードバック状況を評価して、継続的改良に反映させる。

ログブックは入力した学生数がいまだに少ない状況にあるが、一方で限られた集計から本学における経験の少ない手技も明らかとなった。引き続き周知を行うとともに実習の最後に入力時間を設けるように各科に通達し、入力を促す。

改善状況を示す根拠資料

資料⑮ 2023 臨床実習実習要項（教育要項別冊）（医学実習Ⅱ）

資料⑳ 医学部教育センターホームページ「実習評価システム」お知らせ

資料㉑ ログブックに関する資料（2023）

質的向上のための水準：評価を実施せず